

臨床研究「経カテーテル大動脈弁留置術を受けた症例における、血行動態評価」について

筑波大学附属病院循環器内科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の意義・目的・方法

高齢者の大動脈弁狭窄症は動脈硬化が原因となって発症する変性疾患です。近年、経カテーテル大動脈弁留置術によって高齢者に対しても大動脈弁狭窄症の治療が可能になりました。我々のこれまでの経験では、経カテーテル大動脈弁留置術の術前評価で行なっている CT 検査で大動脈が高度に石灰化し、動脈硬化が進行した症例が極めて多くみられます。当院で大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル大動脈弁留置術を受けた症例において、動脈血管硬化と術後の心機能ならびに心血管イベントとの関連を明らかにすることが本研究の目的です。

また、心不全の指標として広く利用されている血液検査での脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 値について、経カテーテル大動脈弁留置術の対象となる高齢の大動脈弁狭窄症の患者様は様々な合併疾患を持っており、その複雑な病態が BNP 値に影響している可能性が考えられます。そこで、BNP 値を決定づける因子を明らかにすることも本研究のもう一つの目的です。

② 研究対象

2015 年 9 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで当院で経カテーテル大動脈弁留置術を受けられた患者さま

③ 研究期間

倫理審査委員会承認後～2022 年 3 月 31 日

④ 資料・情報の項目

検査データ (心電図、心エコー図検査、胸部レントゲン検査、血液検査、カテーテル検査)

診療録

⑤ 資料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 循環器内科 准教授 石津智子

⑥研究機関名・研究者名

筑波大学附属病院 循環器内科 (家田真樹, 石津智子, 中澤直美)

⑦保有する個人情報に関する利用目的

この研究は、筑波大学附属病院において経胸壁心エコー図検査を施行された患者さんを対象に、診療及び検査記録を用いて上記の課題について調査するものです。本研究の結果は学術目的のために学会や論文で公表されることがありますが、その場合も個人情報の秘密は厳重に守られ、第三者には個人の特定ができないように配慮されます。

⑧保有する個人情報の開示手続

あなたのデータが本研究に用いられているかどうかを知りたい場合や、用いられている場合において、あなたがデータ使用の取り止めを希望される場合には、いつでも下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、あなたのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。研究終了後10年間保管の後にデータは廃棄されます。

⑨問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院

〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：筑波大学附属病院 循環器内科（准教授 石津智子，クリニカルアシスタント 中澤直美）

電話：029-853-3143（循環器内科医局 対応可能時間 平日 9:00～17:00）

FAX：029-853-3227